



家族経営協定で 夢を実現しよう



当たり前からの脱却

「農業は重い物を持ち、かがみ仕事が多いので、足腰が痛いのは当たり前」と考えられていましたが、機械化や作業の工夫で改善され「当たり前」ではなくなってきました。会社に勤めると給料、勤務時間、休日といった就業規則がありますが、農業という職業に就いてもこれらの保証がありません。家族経営だから当たり前？

今は、「それは当たり前」、「農家だからしかたがない」、という時代ではないのです。家族ひとり一人の思いを出し合い、みんなで話し合って理解し合い、家族のルールを文書で取り交わす、それが家族経営協定です。

家族経営協定の結び方

1. 内容を十分検討します。家族経営協定に取り入れた内容としては、①経営や生活の共通目標②労働時間や休日等の就業条件③将来の経営や家計の委譲などがあります。家族全員でよく話し合います。
2. 協定書を作成します。話し合ったことを文書にしま

3. 調印し、各自1通ずつ保管します。この時、第三者の立会いが望ましいです。
4. 協定内容を見直し、更新しましょう。

家族経営協定を結ぼう

「給料がなければ手伝いになつてしまう。家族だからこそメリハリをつけたい」と協定を結んだAさん。生活面では給料も休日も決まっているので自分で計画が立てられ、経営面では新しい経営計画の実現にむかって意欲を燃やしています。

またBさんは、「家族経営協定は、家族間での約束事です。給料や休日がどうのという権利ではなく、家の中で自分の責任・権利を果たすことを再確認するもの。親子、夫婦の和のための契約です」と家族経営協定を結ぶことにより家族の意識も変わり、みんないきいきと暮らしています。

家族ひとり一人を大切に、意欲と生き甲斐をもって、魅力ある経営体にするためにも、家族経営協定を結んでみましょう。協定締結の問い合わせは、農業委員会や普及センターに。

※ 問い合わせは、普及センター 松尾駐在(86-41211-2)へ。

文芸

俳句

風の朝拾ふ木の実のざるに満つ

小林 順子

銀杏の散りしく庭や寺無住

若梅あやめ

木の実落つ山水亭の深底

戸村 静華

ふつつつと童心ゆるする木の実笛

玉虫たけし

菊の香や白寿賜り父笑まふ

福田 晴一

木の実拾ふ子は木育の夢いだく

藤代 ゆう

木の実落つ山の峡間の道冷えて

土屋 栗水

木の実降る拾ふ園児の列乱れ

福田 幸子

由緒ある椎の巨木や木の実降る

今関 茂生

煌めきて九十九里浜月の波

選者 山口一秋

短歌

窓にゐし身重の蟪蛄かまきりいづこにて産

卵なすや雨の降り出す

吉岡 信子

陽だまりを作れる如く明るかり石

路の花黄に咲くあたり

宇井 ちい

遮断機が下がるとおれぬ事知るや
野良犬は止まり電車見送る
佐瀬 初音

午後陽が富士の裾野を染めてゆ
きのんびりのんびり時の過ぎゆく
八角 三枝

草むらに咲きぬし野菊も色あせて
いつしか冬日の野辺となりきぬ
鈴木 やす

眼の前を花びら散るやと見てたて
ば黄の蝶ひとつ枯庭をゆく
石井 ユク

冬となり吹きゆく風も彩沈め街路
樹の公孫樹散りて裸木
萩原 信一

実測をなしてかきたる伊能図の弓
なり美しき日本列島
渋谷 静子

いただきし色とりどりのパンジー
よ今日よりひとつよろこびの増す
向後 房

長らへて今日は曾孫の七五三男孫
と女孫の晴れ姿みぬ
秋葉 とく

ぶゆ白く飛び交ふ庭に里人ら建前
の餅拾ふと待てり
選者 斎藤つね子

